

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 2007年度の再編による学部、前期課程、後期課程の間の教育課程の連携を安定的に維持・発展を図る。	→学部科目と大学院前期・後期科目の共通基盤と専門基盤の評価。学部からの内部進学者の授業評価および成績状況	B
2. 厳正な学位審査体制を強化する。	→博士論文の公開発表会の実施状況と外部審査員の登用（文学研究科内規別表3）状況。	B
3. 教育課程に即した専門分野を明示し、大学院案内で公表し、大学院オリエンテーションで周知させる。	→大学院履修・学習要覧Webサイト (http://www.kwansei.ac.jp/youran) とオリエンテーションプログラム表	C
4. 課程制博士課程における、入学から学位授与までの教育システム・プロセスの円滑化に向けた実質的な制度を設計する。	→入学から学位授与までのタイムテーブル（大学院履修・学習要覧Webサイト）を守っているか定期的指導の実施状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

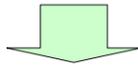
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 大学院要覧「学位規定」に修士および博士学位の授与方針を明示し、文学研究科3専攻12領域(後期課程は11領域)でさらに詳細に教育目標を設定し、専門科目を幅広く設けている。 (現状説明) 大学院履修心得、大学院履修・学習要覧Webサイトとオリエンテーション・プログラム表で周知している。2009年度、修士学位は51名に授与した。2005年度以降のデータに示されるように、修士学位授与数と授与率は安定している。博士論文の指導は、主に指導教員と副指導教員により「特別研究科目」と演習において学生の実情に沿った適切な指導ができるように設定し、進捗状況のモニターをきめ細かく行っている。博士論文計画→予備論文→博士論文提出の課程は明確に示されている。2009年度、課程博士学位は12名、論文博士学位は1名に授与した。2005年度以降、課程博士学位の授与数は増加しており、課程博士の指導が適切に進んでいるものと考えられる。
☆ 小項目6.1.2	前期課程では多様な科目を設定しており、指導の中心となる「〇〇学研究演習」(必修)に加えて、「〇〇学文献研究」「〇〇学資料研究」などの幅広い選択科目を提供し、学位授与までの研究活動を指導している。後期課程では「研究演習」「博士論文作成演習」を中心に高度で専門的な研究を主体的に遂行できるように柔軟でかつ効果的な教育課程を設けている。全学仕様のオンライン・シラバスを公開している。
☆ 小項目6.1.3	大学院履修心得、大学院履修・学習要覧Webサイトとオリエンテーション・プログラムで公開しているが、周知度の調査は行っていない。特に社会への公表については計画的な測度は設けていない。
☆ 小項目6.1.4	大学院問題検討委員会、領域代表者会議、大学院執行部会を定期的に開催し、学位授与およびカリキュラムの適切性に関する諸課題について検討している。
☆ その他	特になし。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	課程博士学位の授与数が安定してきた。2005年度以降、文学研究科における課程博士学位授与数は36名であり、その内訳は2005年度6名、2006年度5名、2007年度7名、2008年度9名、2009年度は22名であった。一方、論文博士(乙号)の授与総数は同時期14名であった。修士学位授与状況は、現状で述べたように、安定している。
小項目6.1.2	「特別研究」科目の設置などによる徹底した研究指導、学位論文提出までのタイムテーブルの明確化、大学院生と教員への教育課程の周知、大学院生(研究員)による進捗のモニターが連動し効果的に機能していると判断する。
★小項目6.1.3	目標3で示した方法により公表している。
小項目6.1.4	2009年度の各種委員会の報告より、難問・支障は報告されていない。通常の検証は順調に進んでいる。
その他	特になし。



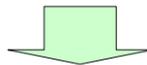
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	教育課程のタイムテーブルの周知。
小項目6.1.2	上記の体制を進める。
★小項目6.1.3	公表範囲を拡大する。
小項目6.1.4	上記の体制を進める。
その他	特になし。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	学位論文が遅れている大学院生(研究員)のフォローアップを徹底する。
小項目6.1.2	この項に特化した問題ではないが、「大学院研究員」の身分についての集中的な検討が全学ベースで必要である。
★小項目6.1.3	学部も含めて公表範囲を検討する。社会人入試に関しては公表範囲が定まっていない。
小項目6.1.4	特になし。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	学位授与方針は明確であるが、授与にいたる教育課程について改善の余地があるかどうか大学院将来構想委員会で検討する。特にグローバル化時代の文学研究科における学位授与の学術的・社会的貢献について検討する。
小項目6.1.2	大学院問題検討委員会で検討する。
★小項目6.1.3	上記に即して再検討する。
小項目6.1.4	特になし。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学位授与（とくに課程博士）が順調に行なわれていることは評価できますが、項目としては「6.4教育成果」に配置したほうが適切かもしれません。

【学内委員】

○学位授与方針が明示され、きめ細かい指導体制が確立されており、その結果、とくに課程博士学位の授与数が増加し、安定的に推移している点は高く評価できます。また、大学院問題検討委員会、領域代表者会議、大学院執行部会が定期的に開催され、研究科に関する諸課題について検討が行われていることも重要です。さらなる向上が期待されます。

○取り組みを評価します。

○記述されています学位授与方針は学位授与手続きというものではないでしょうか。学位授与方針を全学で確定する必要があるでしょう。

○小項目6.1.1の現状説明は6.1.4での説明ではないでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.1.1→6.1.4に配置 「2009年度、修士学位は51名に授与した。2005年度以降のデータに示されるように、修士学位授与数と授与率は安定している。」すでに同様の情報が6.4.に記載されていますので、この部分は削除できます。

★○小項目6.1.1.「博士学位論文の指導は、主に指導教員と副指導教員により「特別研究科目」と演習において学生の実情に沿った適切な指導ができるように設定し、進捗状況のモニターをきめ細かく行っている。博士論文計画→予備論文→博士論文提出の課程は明確に示されている。」この部分は6.1.4に配置し、ご指摘にあるように項目内容の整合性を図ります。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
